

# OMM 2016(UK)遠征記 序

随分前のことになってしまったが、10月末にイギリスへ飛び、**OMM**へ出場した。

OMMとはOriginal Mountain Marathonの略で、49年前にKarimar Mountain Marathonとして始まった歴史あるレースだ（来年50周年）。簡単に言えば2人一組で参加するレースで、1泊2日でオリエンテーリングのようにチェックポイントを巡り、夜は指定された場所でキャンプをしなければならないというルールである。そしてサマータイムが終わる週末、まさに季節が変わる嵐の季節にあえて行われる過酷なレースでもある。

参加者はチェックポイントに早く正確にたどり着けるナビゲーション力はもちろん、2日間で最大100kmを超えるコースを踏破するスタミナ、しかも道のない荒野を突き進むというパワー、そして暴風雨となることもある環境への対応、寒い夜を過ごすキャンプ能力、それらをできるだけ身軽にこなすためのパッキング力、そして2人で力を合わせるというチームプレーなど、まさに山の総合力を問うレースだ。

正直なところナビゲーション力以外にはさほど威張れるスキルのない僕にとってはあまり出てみたいと思う種類のレースではないのだが、このOMMが3年前から日本でも開催されることになり、ご存知の通り僕がコースプランナーを仰せつかることとなり、であればぜひ本場のOMMを体験してきてほしいという期待に応え、出場することになった。はじめは視察しながらということだったので、設置や撤収も手伝いながら、好きなコースを部分的に走ってみるのがよいのではという話もあったが、OMM JAPANの運営がイギリスの彼らが思っていた以上にしっかりできているということで、わざわざ視察する必要もないだろうと、招待選手として出られることになった。

出るからにはしっかりパフォーマンスを発揮したい。となると相方選びも重要だ。本来であれば**TEAM阿蘭梨**のメンバーと出たいところだったが都合がつかないということもあり、同世代のオリエンテーリング仲間の寺垣内くん（ガウチ）に頼むことにした。一緒にいろいろな国へ遠征し、国内でも合宿で何度も一緒になった。相手の技量や性格もよくわかっていて、いい意味で気を使わなくてよい相手でもある。懸念があるとすればどちらもナビゲーションに特化したタイプで、山やエンデュランス系に秀でてはいない点で、お互いの弱点を補える可能性が低い点だった。ただお互い活動の幅を広げる中でそういうアクティビティを少なからず経験するようになっているのでなんとか対応できるだろう、と。

次に出場クラスについて考える。OMM JAPANは決められたポイントを順番通りに回ってきてそのタイムを競うストレートと、制限時間内にどれだけポイントを回れるかを競うスコアの2カテゴリーがあり、さらにそのなかで距離や時間の長短によってロング・ショートという2クラスに分かれている。イギリスでもカテゴリ分けは同じで（ただし、ストレートではなくライナーコースと呼ばれる）、クラスがより細かく分かれている。ライナーコースはエリートクラス（E）、A、B、C、Dの5クラス、スコアはロング、ミディアム、ショートの3クラス。

スコアはスコアで人気があるようだが、やはりライナーコースがOMMの華。実際に現地で他の参加者と話していてもライナーコースに出るといって一目置かれるし、俺はBコースで何位になったことがある、と自慢話にも拳がってくる。何より僕らはオリエンティア。オリエンテーリングと同じスタイルの方が楽しみやすい。

ではクラスをどうする?? 通常、Eクラスは誰でも出られるというわけではない。過去のOMMや他のスポーツでの実績が必要となる。もちろん僕らは招待選手だし、日本トップオリエンティアとして出場が認められる可能性は高かったが、昨年OMM JAPANのチャンピオンチームとして出場した柳下・山田チームが完走できていない。ややハードルが高いような気がしたし、オリエンテーリング大会同様、まずはAクラスで実績を残してからEクラスへというステップを踏むほうが今後のためにもよいんじゃないかと思い、今回はAクラスに参加することにした。他の

選手のレベルが分からないので現実的な目標を立てるのは難しかったが3位入賞を争うくらいにはいけるんじゃないか、というのが事前の予想だったが。。

実は僕はOMM JAPANにも出たことがない。初めて出るレースというのは、どんな準備をすればよいのか、というところから想像しなければならず、なかなか大変だということに気づいた。そして長年取り組むオリエンテーリングでは事前準備の過程からすでに自動化されているということにも気づく。その点、OMM JAPANに毎回参加しているガウチは慣れていて、山でキャンプする機会を作ろうと計画してくれ、事前に2回練習をした。ただ個人的にはとても忙しい秋。なかなか予定が合わず、予定と予定の合間を狙ってなんとか山を走ってキャンプする場を設ける。1回目は台風が来ている雨の中での練習だったが、2回とも風はなく気温も下がらずで、とても寒く風も強いと言われるイギリスに向け、どのくらい対応できるか、2人ともやや不安を感じながらの渡英となった。

準備するにあたって柳下さんのレースレポートはとても役に立ったのでここで御礼を言っておきたい。(続く)



台風も近づく中、空木岳でトレーニング



地図読み講習（ぐるぐるナビ）の朝に無理くり練習

コメント(0) | カテゴリー: 2.レースレポート | タグ: OMM2016 | 投稿日: 2016-12-08 [<https://koi.o-support.net/2016/12/2029>] | 投稿者: KOI

---

---



# OMM 2016(UK)遠征記 その1

10/27（木）に日本を出てその日の晩にグラスゴー着。ガウチは1日早く現地入りしており、空港そばのホテルで合流。翌2日（金）昼に日本から参加するTEAM阿闍梨の村越・田島ペアとも合流し、レンタカーのメルセデスに乗って会場へ。



空港そばの街を散歩



空港にて腹ごしらえ

今年はグラスゴーから南へ120kmくらいのところにあるGalloway Forest Parkという一帯だ。森林公園といってもこちらのそれは木に覆われた場所ではなく、草原というか荒野。そして大会会場は牧場の上に設営された巨大テント。



大会会場のテント。金曜午後、まだ人はまばら

招待枠ながら事前エントリーがなされておらず心配したが、ずいぶん簡単な確認だけでエントリーが行われ、SIを（ガウチの）腕に巻いてもらいエントリー完了。SIは1人1つと思っていたが1チーム1つであった。会場に併設されたOMMショップでは、やはり日本から参加するポーリン・かこペアとも落ち合う。ショップではこれは安いとみんな爆買いしていたが、もともと高い値段の商品なので僕にはそこまでお安く感じなかったのは経済力の差？





SIを腕につけるのはJAPANと同じ

さて日本から参加の3チームはみんな宿はバラバラに取っており、僕たちは南へ10マイルほどの小さな町の民宿へ。そこにもOMMの参加者が泊まっており、夕食を取りに宿のBarに入ったら、腕についたSIを見つけて話しかけてくれた。日本にも仕事で行ったことがあるというロンドンのおじさんは、奥さんと一緒にいつもスコアに出ているんだとビールを飲みながら話してくれた。旦那さんはもともとオリエンテーリングをしていて、仕事で一時期離れてしまい、ここ10年ちかくはOMMに毎回参加している、と。そういえばグラスゴー空港でロストバゲッジとなり困っていたデンマークの40代くらいのおじさん2人もオリエンテーリングをしていると言っていたし、オリエンティアには人気のあるレースのようだ。Barに入ったけど僕らは残念ながらノンアルコールでレースの準備をし、当日の朝を迎える。

当日は雨がわずかに降る。ただ風はない。気温も暖かいとはいえないが、めちゃくちゃ寒いとも感じない程度。まだ暗闇のなか会場から少し離れた駐車場を目指す。エントリーを済ませているので会場へ行く必要はなかったが、駐車場からスタートへ行く途中に会場が位置するので様子だけ見に行く。どことなくみんな緊張の面持ち。



スタートの朝の会場

会場からスタートまでは3マイル！しかも登り基調。レース前に疲れるのも嫌だったのでほぼ歩きで1時間近くかかり、スタート時間ぎりぎりになってしまう。OMMのスタートは8:15～8:30というふうに指定され、その時間帯に好きなタイミングでスタートする。で、僕らはギリギリに着いておきながら、さらにそこでOMM JAPANに来るイギリスのスタッフと立ち話をしていたらこの時間に少し間に合わず、遅刻スタートになってしまう。オリエンテーリングであれば遅刻した分も自分たちのタイムに加算されるのだが、どうやらこちらは（今回は？）スタート時にチェックするタイムが記録になるようで問題はなかった。（続く）





スタートまでの長い道のり

ちなみに持って行った装備は以下の通り。

**EACH COMPETITOR MUST WEAR OR CARRY THE FOLLOWING (個人で用意が必要なもの) :**

**Taped seams waterproof jacket with hood :** OMM Kamleika Race Smock II

**Taped seams waterproof trousers:** OMM Kamleika Pant

**Clothing suitable for mountain running and walking:** OMM Grid Tee Short Sleeve, OMM Swift Arm Warmers, noname Terminator pants & OMM Kamleika Short

**Spare base layer top:** noname Underwear shirt Skinlife Pro

**Spare full leg cover:** noname Underwear pants Skinlife Pro

**Warm layer top:** OMM Roter Vest

**Hat, Gloves & socks:** OMM Kamleika Cap, noname Pursuit gloves & noname Compression socks Nc2 (ソックスは2足)

**Footwear suitable for fell and trail use:** inov8 X-tallon 212

**Head torch capable of giving useable light for a minimum of 12 hours :** Gentos Headwars HW-833XE

**Whistle & compass :** リュック付属のもの & Suunto Arrow M-9

**Map (as supplied):**

**Insulated sleeping bag :** OMM MountainRaid 1.6

**First aid equipment:** ラテックス手袋、バンドエイド、テーピング、熱さまシート

**Pen/pencil and paper capable of being used in wet conditions:** ペンと耐水紙

**Survival bag (not a sheet):** SOL エスケープライトヴィヴィ

**Rucksack:** OMM Classic 32

**Emergency rations:** サタケ マジックライス 五目ご飯

**Note: Spare warm kit and insulated sleeping bag must be waterproofed (e.g. in a drybag):**対象を  
The Scrubba wash bagに封入

**EACH TEAM MUST CARRY THE FOLLOWING AT ALL TIMES: (チームで用意が必要なもの)**

**Cooking equipment including stove with sufficient fuel for duration of the race, plus some spare for emergency se, left at the end of the event :** snowpeakのバーナーと大会会場で購入したガス

**Tent with sewn in groundsheet :** アライテント ライズ1プラス (僕はシート、ガウチはフレームを分担)

**Food for 36 hours for two people :** 各自で用意 (袋ラーメン1袋、アルファ米1袋、ペンネ200gくらい、袋スープ2つ、ドリッ  
プバックのコーヒー1つ、チョコ数かけら、ドライフルーツ150gくらい、グリコCCD\*12個)

**他に**

替えの下着 (MILLET DRYNAMIC MESH BOXER)、エアマット (LOTUS イナーシャX ライト)、カメラと緊急連絡用のスマホ  
(Sony XPERIA Z3 Compact)、ポリ袋 (キャンプ時の靴下として)、サロモンのソフトフラスコ500mlmRaidLightのストロー付ボ  
トル750ml、プラティパスの水バック1.5Lを用意。ソフトフラスコにジェルを詰め、ボトルと水バックに合計1.75Lの水を入れる。

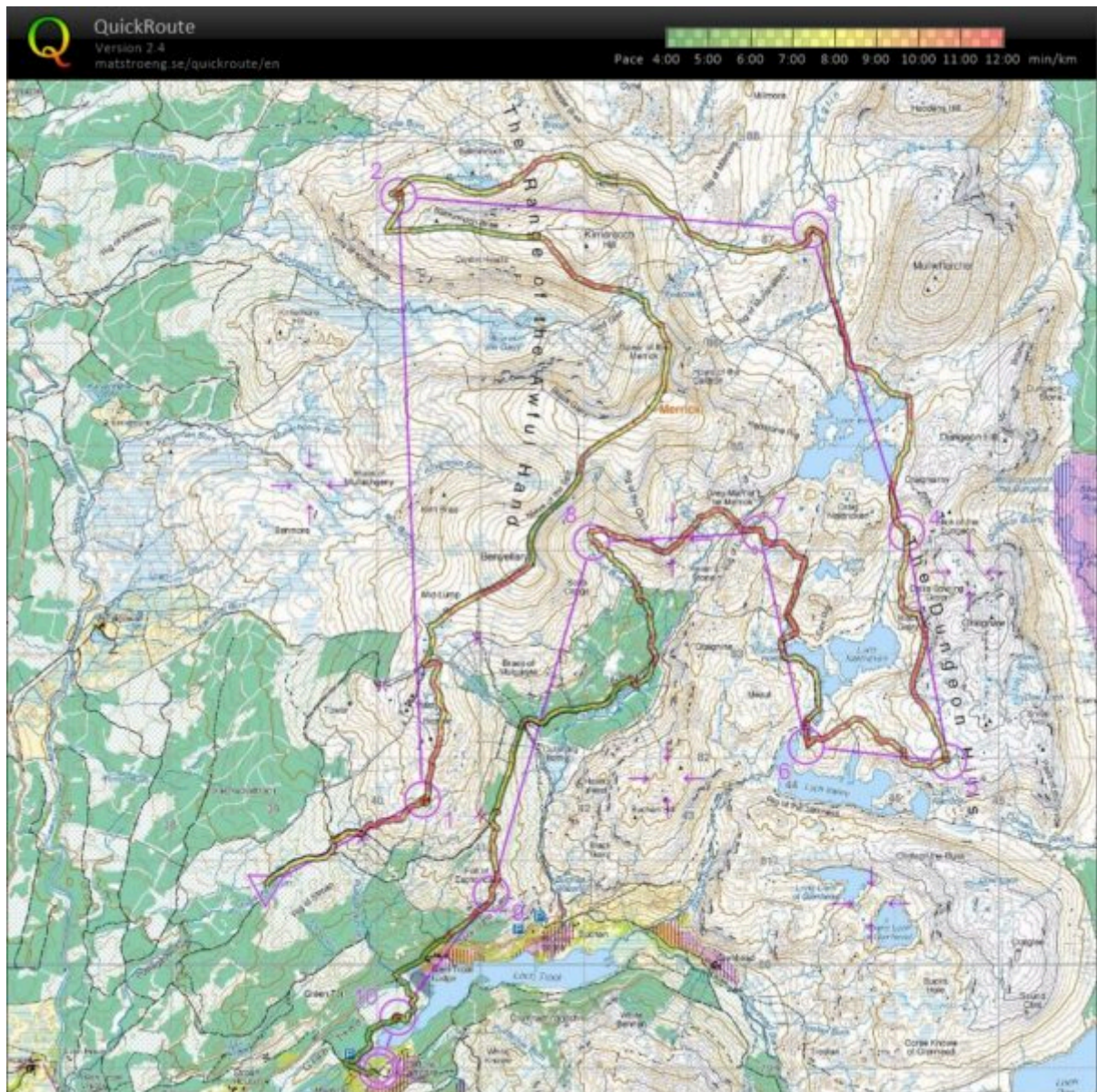
自分で着用したウェア類を除いて、担ぐ重さが7kg弱だったと推測される。(水と一部小物がない状態でホテルにて計量し4.9kgであつ  
た)

コメント(0) | カテゴリー: 2.レースレポート | タグ: OMM2016 | 投稿日: 2016-12-09 [[https://koi.o-  
support.net/2016/12/2034](https://koi.o-support.net/2016/12/2034)] | 投稿者: KOI

---

# OMM 2016(UK)遠征記 その2

lass A day1 length 27.6km, climb 1800m, 10 controls



詳しい地図はRouteGadgetに（スマホではうまく表示されないかも。左欄Routeにチェックを入れれば一部チームのルートも表示可）

## △-1

いよいよスタート。事前の練習から30分に1回くらいの割合で先導を交代することになっていた。先導者はナビゲーションとペースメークを担当。後ろの人間はナビゲーションに間違いがないか確かめながらついていって、先読み。で、最初は僕が先導。

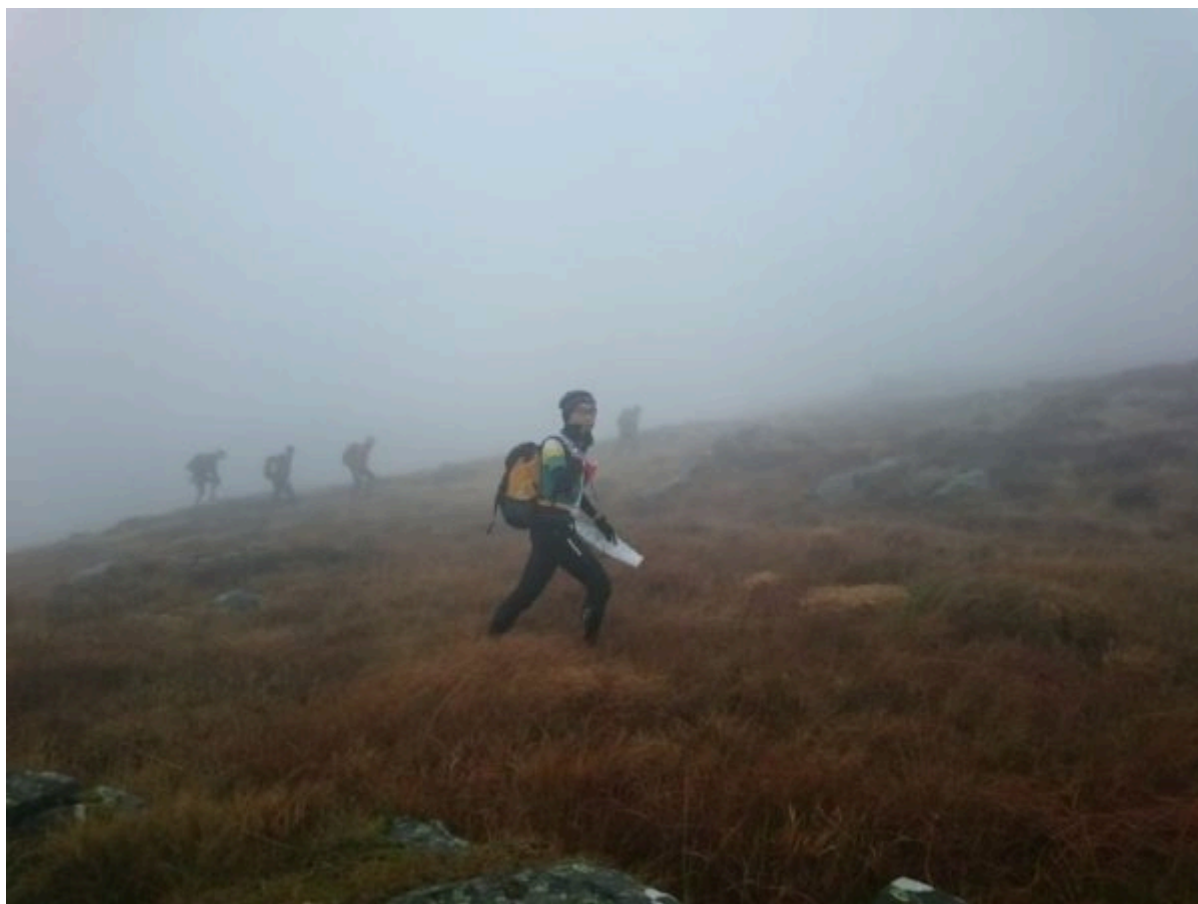


1番まではそんなに難しくは感じず、柵を超える地点まで道を速めのジョグペースで進む。周りのチームは僕たちより遅いペースがほとんどで、数チームだけが前に行く。恰好からみてもEかAの猛者たちだろう。柵を超える場所へ到着するも違和感あり。まず手前で道が分岐しているはずだが、それはどこだかよくわからなかった。さらに目の前には道が多数走っている。縮尺1/40000、等高線間隔15mという地図に不慣れだという不安もあって現在地に確信を持ってない。山塊の斜面の方向が変わる位置を確認しながら、コントロール南西の平らなエリアを目指し登る。霧が出て来て視界は50mくらい、遠くの地形を使っでの位置把握はできない。そのうち登りが落ち着き、でこぼこした場所に出る。平坦な場所だと先読みしていたので一瞬戸惑ったが、丸に近づいているという確信は得る。ピンポイントではまだ位置を把握できていないので川を見て確定させようと東へ進むも川っぽい小川がたくさんあり、どうもよくわからなくなる。しかし周りの傾斜や川っぽいものの位置から「ここしかないでしょ」というピークを見つけその北側にあるというのでしばらく探しても見つからない。ムムムツとしばしばピークを登ったり川に戻ったりして右往左往。たまたま風に乗って聞こえたピピツというSIの音が聞こえ、その方向へ向かうとフラッグがある。さっきから探していたピークの北の根元に近い場所についていた。

後でルートガジェットや**スプリットタイム**を見返すと上位のチームも時間がかかっているようで、ここはやはりトリッキーだったようだ。基本的には砂利の引かれていないトラック（日本いえば林業用の作業道のような道）は地図に描かれない。

## 1-2

ややドタバタ感のある出だした。こういう時は次でどれだけ落ち着きを取り戻せるかが大事。先導をガウチと交代しリズムを整える。ここは勝負レグと言ってもよい長いレグなのでプランニングはガウチと相談。大きくは、まっすぐ行くか、尾根を回るかの2択。ここまでの感じから平坦な場所は意外と難しいのかもしれない、地形がはっきりしている尾根のほうが無難だろうということで尾根を行く右回りをいったん選択。しかしそれは早いのか？と再度の検証。正直、ここまでの情報だけでは解決できない。しかし2番以降のレグはあまり登りがないように見える。Aコースの登距離1800mに到達するためにはここは登るルートが正解ではないかと推測する。



1-2の尾根たどり



ということでMerrickと名前のある山まではひたすら尾根通り。同じコースと思われるチームと抜きつ抜かれつ。まったく付いていけないペースで登っていく屈強そうなチームは荷物の量も圧倒的に少ない。あんなので一晩過ごせるのだろうか。Merrickの三角点を過ぎたところで風が強くなる。そして鞍部へ下りて行くところこける。その拍子に撮影のために手にもっていたスマホを強打。危ない危ないとスマホをしまい鞍部へ出る。鞍部にて再び交代し、先導は小泉。



Merrickの三角点

ここでもう1つのルートチョイス。鞍部からピークへ登るか、斜面をトラバースするか。最初のプランでは登るほうが無難そうだが、現地で斜面の様子を見てから決めようという決断をし、さらに途中で他のチームと一緒にいることがわかり、周りのチームがどう行くのかも見て決めようとする。で結論としてはトラバース。道になっていない限り、平らな場所でも走りやすいわけではない、であれば距離を短く稼いだほうがよさそう、というのが理由。周りにいたチームはここで沢の水を汲んでいる。そうか、彼らは持って行く水が少ないのだな。山の上のほうの水はきれいということも多くチームが同じことをしていた。確かにそれができれば1kg以上軽くできる。

しかし斜面がきつくとトラバースというよりは斜めに登っていく形になる。2へアタックする途中で、あっという間に抜かれたチームが登り返していくのを見る。きっと3へ向かっているのだろう。尾根を辿るのか。2も難しいアタックだったので、石塁の分岐をアタックポイントにして確実に進む。

ルートガジェットではトップチームはまっすぐ言っている。確かにレースを終え、現地と地図の様子を知った今ではそのほうが得策にも思える。しかし彼らとのタイム差は20分。一見、差があるように思うが、もともとのペースの違いを考えるとかなり健闘しているタイムなので、やっぱり尾根が正解だったのかもしれない。

### 2-3

これも先導。さっきのチームの様子を見ると登りが正解なのか。いや、しかしこれは北の鞍部を狙った左まわりが正解ではないのか。ガウチとも一致し、小さな湖の南を目指す。真ん中の鞍部周辺は傾斜も緩く気持ちよく走れそうな場所だったが、1週間前にケガした箇所がだいぶ痛み出し、デコボコの地面も相まって苦戦した。真ん中の鞍部を超えると霧が晴れ、1km以上先の岩崖を視界にとらえることができ、後はそこまでデコボコな荒野をひたすら進むだけ。3の北の谷の景色が素晴らしく、これは写真に収めようとスマホを取り出すと画面が割れていることに気づく。さっきこけたときか。これが意外に精神的にダメージだった気がする。その後うまくいってもどこか残念な気分が残ってしまうことに。。

### 3-4

ガウチ先導。湖を右に巻くだけ。ルートチョイスはなさそう、なんだ本場のコースだってこんなもんかとケチをつけながら進む。湖の北東の岸だけがきれいな砂浜になっていて不思議だった。もうこの辺りでは地図にもすっかり慣れ、ナビゲーション上の困難さは感じない。

### 4-5

小泉先導。これも大きな山塊を左に見ながら5のある山塊に登り、川を使って流しそめんするだけ。ひょっとしてほかにルートチョイスがあるのかと疑うも細かなルート取りはありそうだが見つけられず。しかしここはなかなかタフな地面が続く、最初の山塊を巻くのにずいぶん時間がかかり、さらに5の山塊の登りにパンチがあり、スタートから時間も経ったところで、だいぶヘトヘトになる。脱出していくポーリン・かこチームに出会う。ヘトヘトっぷりをからかわれる。少し霧が出てくる。

### 5-6

ガウチ先導。ミドルディスタンスのオリエンテーリングと似たような課題でしょう。JAPANのコースを散々オリエンテーリングのようだと言われたがさほど変わらんじゃないか。前のレッグの疲れもあって僕のペースが落ち気味。

### 6-7

小泉先導。道をどこまで引っ張るか。疲れもあるのでできるだけ道を引っ張ろうと。道になるとペースは上げられる。荒野の凸凹で足を上げるパワーがなくなっているようだ。湖の周りが妙に長く感じる。そのこともあって2人とも違和感を覚え、お互いに現在地把握を間違える。まず僕が湖の西端で湖の北へ続く道に進もうとしてしまい、それは方向が違うと指摘したガウチは、湖の西の湿地の方まで入り込んでいるのではないかと。いやそこまでは来ていないと思うぞ、と僕。意見が分かれる。西の急峻な斜面を見れば答えは出せるとして進み始めると、すぐに使おうと思っていた道を見つけリロケート。疲れによる思考の低下が見られた。そんなこともあり7番で少し止まって休憩。おやつを食べる。



## 7-8

ガウチ先導。尾根を巻くしかないよな???他にどんなルートがあるというのだ。ただひたすら移動する。急峻な斜面で足がすくみ動けなくなる。意外と高所恐怖症である。レース中であれば興奮しているので動けなくなることはないのだが、疲れや緊張感が薄らいだときなどに高度感がある場所でそうになってしまうことがある。ガウチにルート取りを変えてもらいなとか脱出。

真横からのアタックは意外に難しく、川をうまく見つけられず少しロスしたか。トップチームは下目に出て川を詰めるという安全策を取っていた。

## 8-9

もうほとんどナビゲーションの要素なし。しかしお互いの地図の耐水加工（ラミネート）が破損し、8-9の一部がすでに読めない。運よく2人の地図を組み合わせれば全体を読める状態だったが、危うくお手上げになるところだった。ガウチは森をまっすぐ行くルートがよいのではないかとも言っていたが、道を回るルートに踏み跡があり、進みやよくなっていることから納得してもらおう。前半の地図が残っているガウチがまず先導し、後半は小泉先導。道が地図通りではない箇所があったがなんなく対応する。

## 9-10-◎

踏み跡と道をたどるだけ。10はラストコントロールだし、みんな一緒だろうと思っていたらコースによって違っていた。しかも同じようなピークのそばという意地悪さ。最後で一緒になったおっさんチームは僕らを先に行かせ、コントロールを探す様を觀察してから悠々とアタックする老獪さを見せていた。7時間を切れるか! ?というタイミングだったので最後はかなりペースを上げて頑張ったが残念ながら11秒足りず、7:00:11。1日目は6位という結果。トップとは63分もの差。レベルの違いを感じるが、3位とは37分差。まだチャンスはあるかもしれない。

## キャンプ

霧雨のような雨が降る時間帯もあったが、冷え込みも緩く、厳しいキャンプという感じではなかった。15時くらいに到着し、1時間くらいかけ、テントを張って、着替え、補給をし、ひと段落。19時くらいまでテントの中でうとうと休み、夕飯を食べ、結果を見て、明日のスタートを確認したりして21時には就寝。

翌日1時にサマータイムが終わるので時間をきちんとチェック。なんだか考え出すと計算できなくなるのだが、要は1時間多く寝られるということである。(続く)



キャンプ地（割れたスマホはシャッターボタンだけは生きていて写真を数点記録できた）



キャンプ地にて（写真提供：村越さん）

コメント(0) | カテゴリー: 2.レースレポート | タグ: OMM2016 | 投稿日: 2016-12-10 [<https://koi.o-support.net/2016/12/2044>] | 投稿者: KOI

---

---



# OMM 2016(UK)遠征記 その3

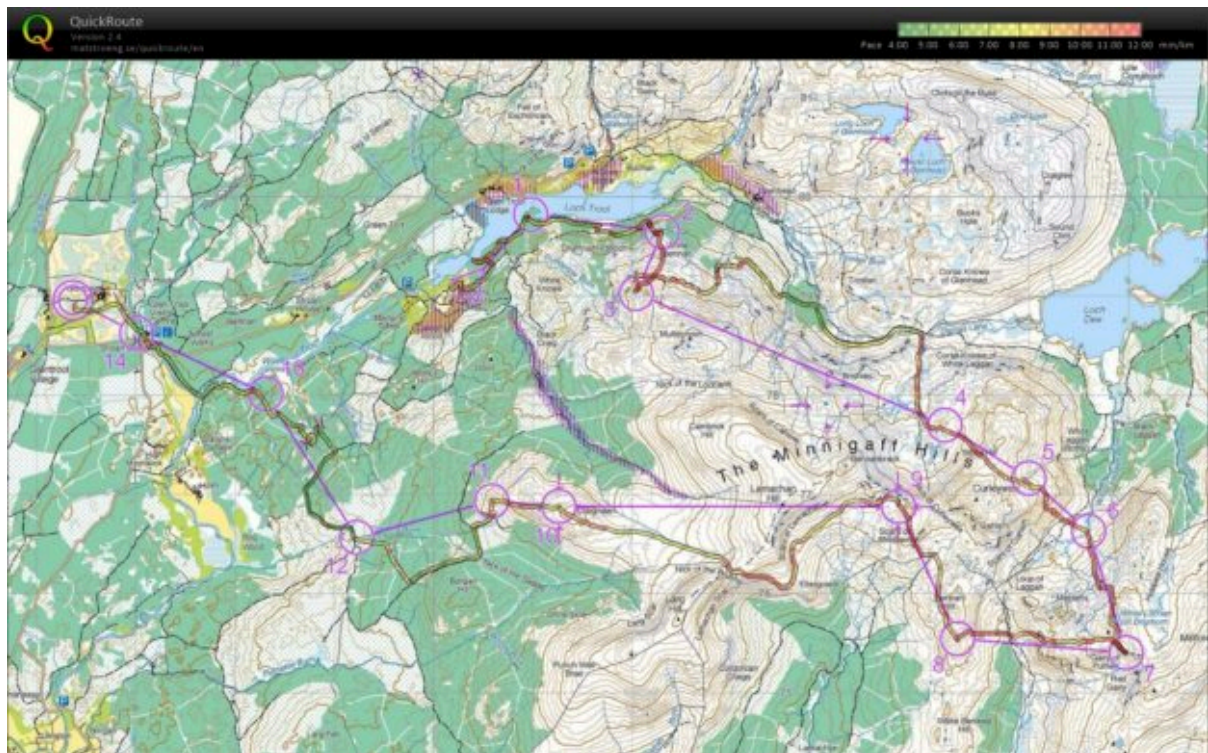
## 起床

思いのほかよく眠れる。僕たちは2日目は6:30からスタートできるので、5:00に起床することに。が周りはまだ就寝中。着替えて、湯を沸かし、水で戻しておいたパンネを温め朝食を食べ始めたのが5:30頃で、このころになって周りのテントにも明かりが灯される。バグパイプのパフォーマンスが始まり、ほとんどのチームが起床。

6:00にはテントの片付け、荷造りを始める。JAPANではごみ持ち帰りなのだが、こちらではゴミ箱があり、みんなそこに食料品の袋などを捨てていく。地味に軽量化が図れる。中には地図を捨てる人さえいる。確かにルールでは2日分の地図を持っていないと失格とは書かれていないし必要はないのかも。宝の山じゃ〜と地図を漁ってみたが、どれもエントリークラスのDコースばかり。きっと初心者の人たちがやられるかと捨てて行ったものではないかと推測する。

前日の様子から水をボトルに750mlだけ持って行き、なくなれば途中で汲む作戦を取る。食料が減った分を考えると前日より1.5kgは軽くなったはず。ただテント等が濡れているのでもう少し重いか。

**Class A day2 length 22.2km, climb 1680m, 14 controls**



詳しい地図はRouteGadgetに（スマホではうまく表示されないかも。左欄のRouteにチェックを入れれば一部チームのルートも表示可）

### △-1

ガウチ先導。分岐が1つあるだけの道を辿るレッグ。まあ出だしのレッグは簡単になっちゃうよね、と余裕のスタートだったが分岐が現れない。距離は十分過ぎている。周りの植生も地図とは様子が変わってきた。手前には分岐がいくつもあった。昨日と同じで地図に描かれていない道だろうと思っていたが、どうやらその中の1つが目的の分岐だったか。ガウチと相談。彼も違和感を覚えるが、しかし道にしてははつきりしていなかったと確信は持たず。とりあえず湖側を覗いてみて道があればわかるでしょうと、湖へ近づいてみると道があり、あったあったと安心し、その道を辿ってそれっぽいところに行くも見つからず。複数のチームもウロウロしている。なぜ〜？と思い、ふと対岸に目を移すとどうやらだいぶ手前にいることが分かる。少し手前にいる可能性は考えていたがこんなに手前にいるはずはない。だがその謎解きよりもやるべきは1番へ行くこと。湖沿いの道はやがてなくなるが、同じような目にあつたチームが多かつたのか、踏み跡ができていて、たしかにはっきりした道に出る。それでようやく1番へ。

あとで見るとどうやらスタートエリアが地図上のスタート地点（△）ではなかつたようだ。しかしスタート地点までの誘導テープもスタート地点に設置されたフラッグを見た覚えがまるでない。後日イギリスのメンバーに確認したらフラッグはあつたらしいのだが、腑に落ちない。10分程度のロスとなる。

### 1-2

小泉先導。湖沿いの道、あるいは中段の道を使って下から詰めるか、上に出してしまうか。道をできるだけ引っ張ったほうがよいだろうということで中段の道を進む。ガケの下だと思っていたらガケの上の岩という場所で、泣きながら崖の合間を登る。



2付近から1方面を望む

### 2-3

ガウチ先導。斜面をまっすぐ。これもオリエンテーリング的じゃない？





3への登り

### 3-4

前半ガウチ先導、後半小泉先導。大きなルートチョイスがある勝負レグだろう。尾根を進むか道を進むか。2日目ということもあり疲労で2人とも足が重く、移動が楽な道を選ぶ。アタックは問題なし。

スプリットタイムによると妥当なタイムだっただろう。トップのチームは最初のピークを巻き、ひたすらコンタリングするルート。たしかに元気なら速いだろうけど、このときの僕らがこのルートを取っていたらきっと道を使うより遅かったと思う。

### 4-5

小泉先導。尾根を巻くか尾根を切るか。最初の段階では巻くのがよいと考えたが、ガウチはまっすぐを主張。たしかに巻いてもペースが上がるわけではないなと真っすぐを選ぶ。もうナビゲーション的には難しさを感じない。

かなりうまく行った自信があるが、トップと6分差。レグ長は1kmである。





5にて（写真提供：村越さん）

## 5-6

ガウチ先導、途中で小泉先導。う〜ん、レッグとしては面白くないと思う。6なしで5-7のほうがよいのでは？

## 6-7

小泉先導。少しルートチョイスはあるけど、これもオリエンテーリング的ではないか。最短距離を狙って池の右に出てアタック。難しくもない。

## 7-8

小泉先導。ここも最短距離を狙い、谷を下り、森の北端から登り返し。ここの登り返しが辛かった。

トップチームは最初に南の谷を下りるルートだった。最初の登り返しが少なく、道を使えるメリットはあるか。

## 8-9

ガウチ先導。最初のピークを西にかわし、柵の北東の角から尾根を1つ越えた先の谷の先端。ガウチは前半より元気が戻ってきたが、逆に僕はペースが上がらず。性格の差かもしれない。

## 9-10

前半小泉先導、後半ガウチ先導。ここは前半でルートチョイスが分かれそうだ。尾根に行くか、南にトラバースするか。当初は距離と登りを勘案して最短距離を狙った尾根ルートと思っていたが、風が出てきたこともあり、高いところを避ける南周りのルートに変更。トラバースは快適であったが、尾根線に上がるところがなかなかハードだった。

柵のある鞍部から10番手前のピークまでは見晴らしもよく気持ちよく下れる素敵な場所だった。きっとここで気持ちよくなってもらいコースの印象を良くしようというOMMらしい配慮ではないだろうか。

## 10-11

小泉先導。これもあえて11がある理由は不明だ。10-12でもよさげ。

## 11-12

小泉先導。最初は踏み跡がある想定で川を下るルートだったがはっきりした場所がなく大変そうだったので、白抜きのいかにも行けそうに描いてある場所を狙う。もしそこもダメならぐるっと道周りしかないなと思うも、白抜きされている切り開きを進め到着。

## 12-13

ガウチ先導。いよいよ最後となりガウチのペースが上がる。しかし僕はかなりいっぱいいっばいで道ではついていけなくなりそうになる。切り開きが伸びている東側のクロッシングポイントへ進み、西側のクロッシングポイントへ横移動、そこから切り開きを辿っていく予定だったが、なんだか切り開きがいろんな方向に伸びている。こっちが近そうだということを追っていきとだんだん細くなり、最終的には森に戻ってしまい現在地が不明瞭になる。しかもこの森、枝打ちされていない進みにくい森で一瞬途方に暮れるが、まあとにかく北北西方向に進めば切り開きに出るでしょうと頑張る。なんとか切り開きに出て、遠くに見える傾斜の段差から現在地を特定し、10へ伸びる切り開きを見つけ、アタック。

## 13-14-◎

もうあとは道を辿るだけ。2日目は1日目より45分短いタイムでゴール。距離の短さを考えると無難なところか。



ゴール！（写真提供：村越さん）

しかし2日目の成績は1日目より悪く8位。1日目数分差で競り勝ったチームに2日目は数分差で競り負けている。2日目トップは、1日目1番で1時間さまよったチームが本領発揮しダントツ抜け出す。おかげでトップ比も低下。

2日間の総合成績では7位。現地に出ている成績では6位で前後とは30分離れていたのどうあがいても順位は変わらなかったねと2人で納得したものだが、公式成績では11分差で1つ上にチームが入っていた。11分をひっくり返すチャンスはあったと言えばあったけど、でもまあタラレバの話。思っていたほどの結果を残せなかった、というのが正直なところ。しかしOMM、いきなり出て結果を出せるほど甘いイベントではない。そういう意味ではよくやったほうではないかとも思う。

#### レース後：

疲労困憊になるかと思いきや、そこまで重度の疲労感はなく、まだ明るいうちに元来たメンバーでグラスゴーへ向かい、ホテルでは早速仕事の打ち合わせなどをしながら打ち上げ。翌日には日本に向け出発。短い遠征だった。時差ボケもあるんだかないんだかよくわからないうちに終わってしまったが、少なからず影響はあるのだろう。でもこのレースのために1週間の時間を空けてしっかり準備するためには毎週イベント運営となる秋のスケジュールを見直すところから始めなくてはいけない。(続く)

コメント(0) | カテゴリー: 2.レースレポート | タグ: OMM2016 | 投稿日: 2016-12-11 [<https://koi.o-support.net/2016/12/2068>] | 投稿者: KOI

---

---



# OMM 2016(UK)遠征記 まとめ



2日目のコースにて (写真提供 : 村越さん)

あらためて成績を振り返っておく。

## Class A

**DAY1 length 27.6km, climb 1800m, 10 controls**

top 5:57:04 / us 6th 7:00:11

pace 15'12/km (\*9'13/km) , %top 117%

**length 22.2km, climb 1680m, 14 controls**

top 4:32:12 / us 8th 6:17:16

pace 15'12/km (\*9'40/km) , %top 139%

## Combined

top 10:39:24 / us 7th 13:17:27, %top 125%



(\*登り100mを1kmとして距離に加算した場合のペース)

2日目のほうがアップ率が高いのでペースが落ちるのは仕方ない。ただ、登りを水平距離に加算したペースでも2日目の方が悪く、さらに1日目の方がミスが多かったことを考えると2日目にはだいぶ疲れの影響があると思われる。

参考までに昨年出た柳下・山田チームがEコースを走ったときの登りを水平距離に加算したペースは、完走した1日目のコース(40.8km, climb 3390m)で8'03/km。単純には比較できないが彼らに比べるとだいぶペースはゆっくりだった。

2日間のトップ比は奇しくもオリエンテーリングの世界のトップとの差に近い(優勝チームは1日目で盛大にやらかしているのでより高いパフォーマンスを発揮した可能性もあったが)。ただオリエンテーリングに比べまだまだ改善の余地があるので2回、3回と経験を積みばもう少しよい結果を残せるだろう。あんまり時間が経ってしまうと年齢による衰えが始まってしまうが。今回はけがの影響が少なからずあったのでベターなコンディションならばさらに上積みはできるはず。

ナビゲーションについてはあまり問題はない。序盤の入りさえ注意すれば地図にはすぐに慣れる。コース取りもルートガジェットで過去のルートをもっと少し研究すればよりよくなりそう。でもそれは基礎的なナビゲーションが身につけていることが前提なのでJAPANのコースで苦戦しているレベルだと難しいだろう。

キャンプについては今回はマイルドな環境だったようだが、ノマディクスから提供されたOMMの軽くて防水ばっちりなアウターと北欧仕様のnonameのインナーのおかげもあって、もう少し過酷でも耐えられるように思う。

結局現状一番の課題は体力面。よりペースを上げるためには荷物を軽くするという余地があり、水を減らせればだいぶ軽くすることができるので即効がありそう。より追及してトップチーム並みに減らすには、食料を減らすか、既製品に囚われない徹底したウェイトカットが必要だ。個人的には食料はがんばるための明日への糧なのであまり減らしたくないのだが。

いずれにしてもデコボコの荒野を進み続けるパワーとそれを持続するためのスタミナが必要で、それは速く走り続けるためのスタミナとは違う種類のものだ。でもこれって北欧のテレインを速く(早くではない)走るために必要なものだから、これからオリエンテーリングでより高い場所を目指そうとしている選手ならば自分を試すよい舞台かもしれない。

タフさと小縮尺の地図への対応という点では海外で活躍するアドベンチャーレーサーにも分があるかもしれない。トレイルレーサーだと誰でも結果を残すのは難しいだろうけど、トップの人たちがこのレースに出てどのくらいのパフォーマンスを示すのかはとても興味がある。

パートナー選びについては、似たようなタイプの2人であることに当初は心配もあったが、しかし2人ともナビゲーションができることは結構重要だと思った。ナビゲーションが簡単とは言ってみたが、しかしぼーっと走れる区間は少なく、常に進路は気にしなくてははいけない。長丁場のレースなのでずっと1人でナビゲーションし続けるのは結構しんどい。お互い交代しながら頭を休める時間帯があったほうがレースをうまく進めることができると思う。細かなルート取りまで含め一切を任せることができたガウチにはあらためて感謝したい。

本来の目的であるOMM JAPANのコース設定という意味では、一部のレッグでは確かにルートチョイスの面白みがあったが、すべてがすべてそうではないし、オリエンテーリング的なレッグも多いし、なんだJAPANも頑張っているじゃないかとは思。でも一方で移動に要する時間とナビゲーションに要する時間の比率でいえば、JAPANはたしかにまだまだオリエンテーリングに近いのかもしれない。そういう意味ではよりOMMらしいコースにしていくことはできそう。

冒頭であまり気乗りしないなんて言ってみたが、レースに出たらやっぱり楽しんでいだし、ゴール直後はもういいや、と思っていたのが、少し時間が経ってこうやって振り返ってみるともっとよくなるはず、またやってみたいと思うのだから、やっぱり地図と山と競争が好きなんだろうな。渡英にご協力いただいたOMM関係者の皆さんにも御礼申し上げ、OMM遠征記を終えたい。



ゴール後にて（写真提供：村越さん）

コメント(0) | カテゴリー: 2.レースレポート | タグ: OMM2016 | 投稿日: 2016-12-12 [<https://koi.o-support.net/2016/12/2079>] | 投稿者: KOI

---